HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

胎盤病理所見と乳幼児の神経発達に関する検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上田, めぐみ, 谷口, 千津子, 鈴木, 美沙子, 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004014

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 76 頁

第 10 回日本 DOHaD 学会
＜一般口演 3＞

胎盤病理所見と乳幼児の神経発達に関する検討

浜松医科大学産婦人科

上田　めぐみ
谷口千津子、鈴木美沙子、伊東宏晃

【目的】胎盤は母体合併症や妊娠中の異常に応じて子宮内環境に適応し，形態的変化を来す．この変化は，胎児期の発育環境を反映し，出生後の発育や発達にも影響を与える可能性がある.しかし，これらを関連付けるバイオマーカーは確立していない．今回，胎盤病理所見が乳幼児の神経発達の予測因子となるか検討した．
【方法】対象は，浜松母と子のコホート研究に登録され胎盤病理検査を行った単胎妊娠 258 例．生後 10～40 月齢時に，神経発達に関して Mullen Scales of Early Learning（MSEL）を用いて，粗大運動・微細運動・受容言語・表出言語・視覚受容の総合評価を行った．胎盤病理所見は，Amsterdam placental workshop group consensus statement に基づき，母体血管灌流障害(MVM: 絨毛過成熟・脱落膜血管障害)・胎児血管灌流障害(FVM: 無血管絨毛・血栓)・絨毛発育遅延・絨毛膜羊膜炎・臍帯炎・脱落膜炎・villitis of unknown etiology(VUE)を検討した．これらについて mixed model 解析を行った．
【成績】MVM120 例(絨毛過成熟 67 例・脱落膜血管障害 92 例)・FVM86 例(無血管絨毛 26 例・血栓 76 例)・絨毛発育遅延 50 例・絨毛膜羊膜炎 103 例・臍帯炎 55 例・脱落膜炎 14 例・VUE15 例であった．MVM は MSEL score を-2.09(95%CI :-3.69 to -0.50)下げる因子で，絨毛過成熟や絨毛発達遅延といった母体-胎盤循環の異常でも神経発達が遅くなる傾向があった．一方，FVM は MSEL score を 3.41(95%CI :1.74 to 5.07)上げる因子で，血栓や臍帯炎などの胎児-胎盤循環の異常や胎児炎症反応も神経発達が良くなる傾向を認めた．
【結論】胎盤病理所見は乳幼児の神経発達の予測因子である可能性が示唆された．